

吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略



平成27年10月

吉田町

目 次

I 計画の位置づけ	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画期間	2
II 基本方針	3
1 取組の視点	3
2 人口減少社会に向けた戦略	5
3 目指す将来の方向	5
III 総合戦略の体系	8
1 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する	
2 本町における安定した雇用を創出する	
3 本町への新しいひとの流れをつくる	
4 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
5 時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する	
IV 推進体制等	9
1 施策の推進	9
2 P D C Aサイクルの確立	9
V 基本目標ごとの具体的な取組	10
<基本目標>	
1 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する	10
(1) 災害防止対策の充実	11
(2) 情報伝達手段の充実・強化	11
(3) 地域防災力の強化	11
(4) 消防団組織の充実	11
<基本目標>	
2 本町における安定した雇用を創出する	12
(1) 内陸のフロンティアを拓く取組の推進	13
(2) ホームページを活用した企業誘致のための P R	13
(3) 企業誘致用地情報の収集・提供	13

(4) 企業間交流の活性化	13
(5) 企業立地支援体制の強化	13
(6) 創業支援体制の構築	14
(7) 水産業への支援の充実	14
(8) 学生と企業の関わりの強化	14

<基本目標>

3 本町への新しいひとの流れをつくる 15

(1) 防災発信拠点の整備	16
(2) 賑わい創出のための体制づくり	16
(3) 子育て世代にやさしい買い物支援	16
(4) 産官学連携による新商品開発に向けた取組	16
(5) 新たな観光スポットの創出	16
(6) 町の魅力情報発信強化	17
(7) PRキャラクターによる町の知名度向上及び交流人口の増加	17
(8) 定住促進支援事業の推進	17
(9) 外国人対応力の強化	17

<基本目標>

4 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 19

(1) 結婚気運の醸成	21
(2) 妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援	21
(3) 子育てしやすい環境の整備	22
(4) ワーク・ライフ・バランスの啓発	23
(5) 固定的な役割分担意識の解消	23
(6) 妊娠、出産について正しい知識の普及	24
(7) 周産期医療等支援体制の整備	24
(8) 産みやすい環境の整備	24
(9) 確かな学力の確保	25
(10) 魅力ある教育システムの構築と質の高い教育の充実	25
(11) 安心して教育を受けられる環境の整備	26
(12) 子育て世帯のための読書環境の整備	26
(13) 子育て支援情報の提供	27

<基本目標>

5 時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する 28

(1) 交通安全意識の高揚	33
(2) 防犯活動の推進	33

(3) 医療費の適正化を図るとともに、健康維持・増進を主体とした取組 を図る	33
(4) 生活習慣病の早期発見、発症予防と重症化予防	33
(5) ライフステージの特性に応じた健康づくりの推進	34
(6) 地域ぐるみでの健康づくりへの取り組み	34
(7) 地域医療の充実	35
(8) 吉田町版「共生型保健福祉」の推進	35
(9) 高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進	35
(10) 高齢者への生活支援サービスの充実	36
(11) 認知症高齢者支援対策の推進	37
(12) 介護予防の推進	37
(13) 地域密着型介護サービスの充実	38
(14) 介護保険サービス事業所との連携	38
(15) 農地の再生利用	39
(16) 地域の担い手への農地流動化	39
(17) 道路ストックの戦略的な維持管理・更新等の推進	39
(18) 専門職員の確保	40
(19) 下水道処理人口普及率、下水道整備率の向上	40
(20) 予防保全型維持管理の推進	40
(21) 浄化槽処理人口普及率の向上	40
(22) 管の耐震化	40
(23) 地域の大人が地域の子供を育てる体制づくり	41
(24) 社会教育活動の広報	41
(25) 地域と学校の連携	41
(26) 地域と家庭の連携	41
(27) 学習の場と成果発表の場の提供	42
(28) 生涯学習推進のための指導者の育成と連携	42
(29) 文化団体指導者の育成	43
(30) 文化・芸能活動の促進	43
(31) スポーツ団体の育成	43
(32) 民間スポーツ団体との連携	43
(33) 安全で安心して利用できる施設整備	43
(34) 高齢者等の読書環境の整備	43

I 計画の位置づけ

1 計画策定の趣旨

我が国は、急速に進む少子高齢化を背景に、本格的な「人口減少時代」に突入している。また、これに加え、地方に比べて合計特殊出生率が低い東京への「人口一極集中」が、日本全体としての人口減少に一層の拍車をかけており、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが、喫緊の課題となっている。

このため、国は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）を制定し、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること、地域社会を担う個性豊かで多様な人材について、確保を図ること及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することの一体的な推進（以下「まち・ひと・しごと創生」という。）を図ることとしている。

また、国は、平成26年12月27日に、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「国の長期ビジョン」という。）及び今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）をそれぞれ閣議決定し、まち・ひと・しごと創生に総合的に取り組むこととしている。

これら、まち・ひと・しごと創生への取組については、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があるため、各地方公共団体においては、国の長期ビジョン及び国の総合戦略を勘案しつつ、当該地方公共団体における人口の現状と将来の展望を提示する地方人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「地方版総合戦略」という。）の策定が求められており、地域の特色や地域資源を生かし、町民に身近な施策を幅広く地方版総合戦略に盛り込み、実施することが期待されている。

「吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）は、平成26年12月27日に策定された「国の長期ビジョン」及び「国の総合

戦略」並びに静岡県が策定する「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン」（以下「県の長期ビジョン」という。）及び「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「県の総合戦略」という。）を勘案するとともに、「吉田町人口ビジョン」（以下「人口ビジョン」という。）と一体となって策定するものであり、本町の人口減少の克服と地域の自立的かつ持続的な活性化に向けた目指す将来の方向、そして最初の5年間の基本的な取組方向と取組項目を示すものである。

2 計画期間

平成27年度から平成31年度の5年間を計画期間とする。

II 基本方針

「人口ビジョン」に掲げる目指すべき将来の方向等を踏まえ、以下の方針で「総合戦略」を推進する。

1 取組の視点

総合戦略の策定に当たっては、国の「まち・ひと・しごと創生」政策5原則を踏まえるとともに、本町独自の視点に基づくものとする。

(1) 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視

○ 「まち・ひと・しごと総合戦略」（平成26年12月27日閣議決定）の一部抜粋

「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

(1) 自立性

各施策が一過性の対症療法的なものにとどまらず、構造的な問題に対処し、地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるようなものであるようにする。また、この観点から、特に地域内外の有用な人材の積極的な確保・育成を急ぐ。

具体的には、施策の効果が特定の地域・地方、あるいはそこに属する企業・個人に直接利するものであり、国の支援がなくとも地域・地方の事業が継続する状態を目指し、これに資するような具体的な工夫がなされていることを要する。また、施策の内容検討や実施において、問題となる事象の発生原因や構造的な背景を抽出し、これまでの施策についての課題を分析した上で、問題となっている事象への対症療法的な対応のみならず、問題発生の原因に対する取組を含んでいなければならない。

(2) 将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。活力ある地域産業の維持・創出、中山間地域等において地域の絆の中で心豊かに生活できる環境を実現する仕組み等も含まれる。

なお、地方公共団体の意思にかかわらず、国が最低限提供することが義務付けられているナショナルミニマムに係る施策に対する支援は含まれない。

(3) 地域性

国による画一的手法や「縦割り」的な支援ではなく、各地域の実態に合った施策を支援することとする。各地域は客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「地方版総合戦略」という。）を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備する。国は、支援の受け手側の視点に立って人的側面を含めた支援を行う。

したがって、全国的なネットワークの整備など、主に日本全体の観点から行う施策は含まれない。施策の内容・手法を地方が選択・変更できるものであり、客観的なデータによる各地域の実状や将来性の分析、支援対象事業の持続性の検証の結果が反映されるプロセスが盛り込まれていなければならない。また必要に応じて広域連携が可能なものである必要がある。

(4) 直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、ひとの移転・しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。地方公共団体に限らず、住民代表に加え、産業界・大学・金融機関・労働団体（産官学金労）の連携を促すことにより、政策の効果をより高める工夫を行う。

この観点から、必要に応じて施策の実施において民間を含めた連携体制の整備が図られている必要がある。

(5) 結果重視

効果検証の仕組みを伴わないバラマキ型の施策は採用せず、明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

すなわち、目指すべき成果が具体的かつ適切な数値で示されており、その成果が事後的に検証できるようになっていなければならない。また、成果の検証結果により取組内容の変更や中止の検討が行われるプロセスが組み込まれており、その検証や継続的な取組改善が容易に可能である必要がある。

(2) 町独自の視点

本町では、喫緊の課題である「命を守る対策」、「財産、生産活動を守る対策」及び「被災時の生活支援対策」から成り立つ「津波防災まちづくり」

を強力に推し進め、確固たる安全の下、「子育て」「教育」「健康づくり」といった「支える安心」を提供することで、活気ある若い人が集まり、元気な子どもが増え、そして、この地で生活し続けたいと願う人々が多くなる社会、言い換えれば、「豊かで勢いのある町」を目指し、さらには心を魅了する「魅せるまちづくり」につなげることを独自の視点として取り組む。

2 人口減少社会に向けた戦略

自然減対策と社会減対策を両輪として人口減少に立ち向かうこととし、課題の解決においては、事業の「量」の拡大のみを目指すのではなく、事業の「質」の向上も目指した検討を行う。

3 目指す将来の方向

「人口ビジョン」では、人口の将来展望を具現化するための今後の取組の基本的な方向性を次のように挙げている。

- 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する
- 若い世代の子どもを持ちたいとするそれぞれの希望をかなえる
- 本町で働き、住みたいとする希望をかなえる

《基本方針の具現化の方向性》

人口減少を克服し、地方創生を図るためには、本町自らが描く将来の姿を実現するという強い気概を持って取り組んでいく必要がある。

「総合戦略」では、「人口ビジョン」に挙げた上記3つの基本的方向性から導き出された5つの基本目標を設定し、避けることの出来ない人口減少社会を見据えた地域づくりを進めていく。

○ 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する

本町は、平成23年3月11日、東北の沿岸部に甚大な被害をもたらした東日本大震災の発災を機に、津波による災害から、町民の生命、財産を守り、そして企業が安心して生産活動を継続できるための施策を、迅速かつ強力に推進することを第一義として「津波防災まちづくり」を目指し、第1ステップである「命を守る対策」として、平成23年11月に町独自で作成した「1000年に1度の大津波を想定した津波ハザードマップ」に基づいた具体的な対策案を策定して、国、県の支援のもと、新たな視点に立った安全、安心を町民等に提供する取組を進め、その一環として、15基の津波

避難タワーを平成 26 年 3 月までに完成させた。

今後は、第 2 ステップとなる「財産、生産活動を守る対策」の実現に向け、防災・減災と地域成長を両立する「内陸のフロンティアを拓く取組」を内包する「シーガーデンシティ構想」を着実に進め、安全安心な町土の形成を目指すとともに、迅速かつ的確な防災対応を図るための整備や地域防災の担い手となる人材育成など、地域防災力の強化を目指す。

○ 本町における安定した雇用を創出する

国の総合特区制度の指定を受けた静岡県の「内陸のフロンティアを拓く取組」となる企業活動維持支援事業（川尻区内）と物資供給拠点確保事業（北区内）の 2 事業を中心とした新たな就業環境を整備するなど、誰もが活躍できる魅力ある社会を実現していく。

○ 本町への新しいひとの流れをつくる

居住地として人々を惹きつけるためには、経済的な豊かさだけでなく、空間的、精神的にも豊かに暮らすことができる地域であることが必要である。

本町では、沿岸部に産業振興の拠点となる多目的広場を中心とした海浜回廊と内陸フロンティア推進区域などを都市計画道路により連携させ、沿岸部の防災対策と賑わいの創出を図るシーガーデンシティ構想を中心に、魅力ある地域づくりに取り組み、本町への新しい人の流れをつくりあげていく。

○ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

本町が行った町内在住の 20 歳から 39 歳までの女性を対象とした「結婚・妊娠・出産・子育て等に関する意識調査」（平成 27 年 8 月）によると、対象者のうち独身の方にお聞きした「あなたは今、もしくは将来、結婚したいですか。それとも結婚したくないですか。」との問いに、「結婚したい」と答えた方は 65.5%、「どちらとも言えない」と答えた方は 22.1%であった。また、対象者全ての方にお聞きした「あなたが理想とする子どもの数は何人ですか。」との問いに、理想とする子どもの数は平均すると 2.43 人であった。

少子化の流れに歯止めを掛けるためには、安心と思いやりに満ちた地域の中で、若い世代の子どもを持ちたいとするそれぞれの希望がかなえられ、温かい家庭を育むことが出来る環境を整備することが重要である。

結婚や出産を望む若い世代が希望どおり家庭を築き、安心して出産や子育てが出来る取組を進める。

○ **時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する**

現下の少子高齢化の進行により、人口減少・超高齢社会の到来が確実に見込まれる中、人口減少社会においても持続可能な、時代に合った地域づくりを進めていく必要がある。

既存ストックのマネジメント強化や地域のサービス提供機能の維持を図るなど、これまで築いてきた社会に代わる、人口が減少しても快適で安全な生活を営むことができる地域社会の創造に向けた取組を進める。

〈シーガーデンシティ構想によって創出される川尻海岸を活用したシーガーデン(海浜回廊)のイメージ図〉



Ⅲ 総合戦略の体系

人口減少の克服と地域の活力の維持・伸長を図るため、5つの基本目標ごとに数値目標を設定し、これを達成すべく、本町の総力を挙げた取組を進めていく。

<総合戦略の体系>

- 1 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する
- 2 本町における安定した雇用を創出する
- 3 本町への新しいひとの流れをつくる
- 4 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 5 時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する

IV 推進体制等

1 施策の推進

人口減少を克服し、地方創生を実現するためには、幅広い町民の参画と協働による施策の推進が重要である。

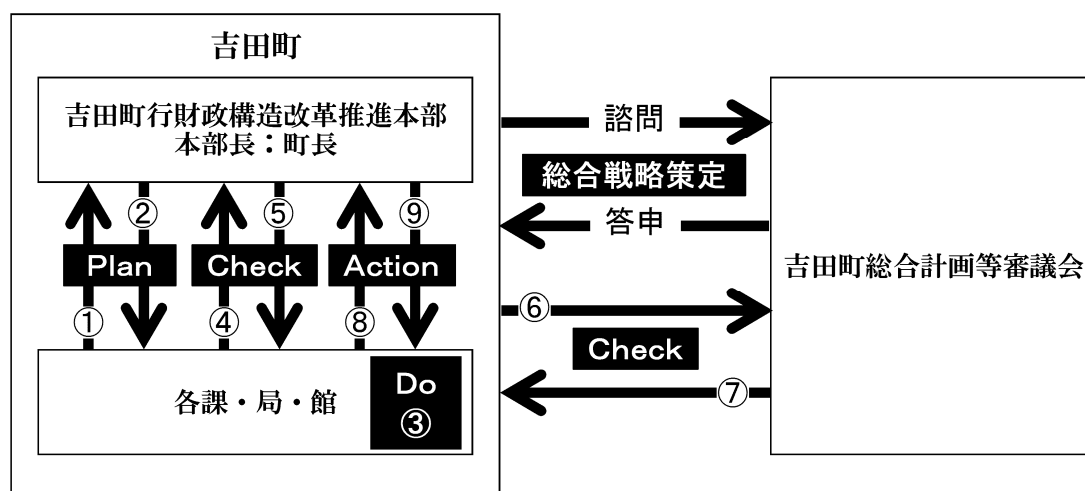
本町では、「まち・ひと・しごと創生」を効果的かつ効率的に推進していくため、本町を含め、産官学金労言、女性、若者、高齢者などあらゆる人の協力・参画をいただく「吉田町総合計画等審議会」を設置した。

今後とも、「吉田町総合計画等審議会」を中心に、各界・各層が一致団結し、施策を推進していく。

2 PDCAサイクルの確立

人口減少を克服するためには、中長期的な視点により、不断の見直しと施策の改善を重ねていく必要がある。

「吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に当たっては、重要業績評価指標(KPI)や施策の進捗、効果等について、吉田町行財政構造改革推進本部会議や吉田町総合計画等審議会等において、毎年度の評価を徹底し、PDCAサイクルによる継続的な改善を図ることにより、地方創生の実現に向けて常に戦略の進化を追及していく。



V 基本目標ごとの具体的な取組

<基本目標>

1 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する

<数値目標>

- 1-1 多目的広場の整備率
【現状値】 0%
【目標値】 100%(達成期限/平成 31 年度)
- 1-2 川尻海岸 (1.6 km) における L2 津波対策用防潮堤の整備率
【現状値】 0%
【目標値】 100%(達成期限/平成 31 年度)
- 1-3 同報無線子局のデジタル化率
【現状値】 0%(現在は、アナログ方式)
【目標値】 43%(達成期限/平成 31 年度)
- 1-4 地域防災指導員の増員
【現状値】 24 人
【目標値】 60 人(達成期限/平成 31 年度)
- 1-5 消防団員の増員
【現状値】 161 人
【目標値】 178 人以上(現状値+10%up)(達成期限/平成 31 年度)

<講ずべき施策に関する基本的方向>

- L1クラスの津波(津波の発生頻度/数十年~百数十年に1回)による浸水はないものの、L2クラスの津波(津波の発生頻度/数百年~千年に1回)では町面積の約4割(8.6 km²)が浸水区域となっているため、この区域に住む方々の人命の保護並びに個人・企業の財産の保護等、安全安心の向上を図るため、粘り強い、津波防災機能を備えた防潮堤の整備を目指す。
- 同報無線のデジタル化により、町民すべてが同じ情報をタイムリーに得られるよう整備する。
- 自主防災組織の活性化を図るため、地域の防災活動をきめ細やかに指示できる「地域防災指導員」を養成する。
- 地域における消防・防災の担い手として、平常時・非常時を問わず地域に密着し活躍が期待される消防団員の増員を図る。

◆ 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（K P I）

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(1) 災害防止対策の充実	① 防災機能を備えた多目的広場の整備 【シーガーデンシティ構想】	○ 施設整備率 【現状値】 0% (実績なし) 【目標値】 100%
	② 防波堤及び主要陸揚岸壁の耐震・耐津波強化 【シーガーデンシティ構想】	○ 施設整備率 【現状値】 0% (L2対応について未整備) 【目標値】 100%
	③ 防潮堤の整備のための盛土材の確保 【シーガーデンシティ構想】	○ 防潮堤完成までの間、盛土材の確保率 【現状値】 0% (実績なし) 【目標値】 100% (町：50%、国・県：50%)
(2) 情報伝達手段の充実・強化	① 同報無線のデジタル化を進める	○ 同報無線子局のデジタル化率 【現状値】 0% (実績なし) 【目標値】 43% (同報無線子局数 42 局中 18 局をデジタル化)
(3) 地域防災力の強化	① 地域防災指導員養成講座の開催により指導員を増やす	○ 地域防災指導員が 2 人以上いる自主防災会の割合 【現状値】 37% 【目標値】 100%
(4) 消防団組織の充実	① 消防団協力事業所登録社数を増やすことにより団員の環境改善を図る	○ 消防団協力事業所登録社数 【現状値】 7 件 【目標値】 20 件
	② 女性消防団員の増員による災害啓発・予防活動の充実を図る	○ 災害啓発・予防活動を行う女性消防団員数 【現状値】 3 人 【目標値】 10 人

＜基本目標＞

2 本町における安定した雇用を創出する

＜数値目標＞

- 2-1 企業立地件数
 - 【現状値】 4件(平成22年度～平成26年度までの新規工場立地件数)
 - 【目標値】 5件(達成期限/平成31年度)
- 2-2 雇用創出数
 - 【現状値】 200人(平成22年度～平成26年度までの新規工場立地による雇用者数)
 - 【目標値】 500人(達成期限/平成31年度)
- 2-3 新規漁業従事者数
 - 【現状値】 10人(平成22年度～平成26年度までの実績)
 - 【目標値】 20人(達成期限/平成31年度)
- 2-4 インターンシップ参加学生数
 - 【現状値】 0人/年
 - 【目標値】 30人/年(達成期限/平成31年度)

＜講ずべき施策に関する基本的方向＞

- 本町における内陸のフロンティアを拓く取組のコンセプトである「防災対策と賑わいづくりの同時進行」の実現に向けた取組をさらに推進する。
- 移転や新規立地の希望を持っている企業に対し、本町を積極的にPRするとともに、支援措置等の情報を簡単に入手できる環境を整えて行く。
- 町内の民間遊休地及び空き工場等の物件情報を収集し、情報提供を行う。
- 企業相互が連携して新たな経済活動が生み出される環境を醸成し、新たな企業立地に結びつけて行く。
- 新規企業の進出を促進するとともに、既存企業の流出を防ぐため、企業立地支援体制の強化を図る。
- 創業支援体制を構築し、町内の創業促進、地域活性化及び雇用確保を図る。
- 新規漁業就業者に対して、漁業研修をはじめ、施設整備等への経済的支援の充実を図るとともに、しらす等水産物の直売所を開設し、継続的な水産業の振興を図る。
- 学生に地元地域及び企業を知ってもらうため、大学と地域間の交流を促進し、雇用創出及び若者定着の促進を図る。

◆ 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（K P I）

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(1) 内陸のフロンティアを拓く取組の推進	① 内陸のフロンティアを拓く取組に係る企業活動維持支援事業地内への企業誘致 【シーガーデンシティ構想】	○ 企業誘致件数 【現状値】 0 件(実績なし) 【目標値】 2 件
	② 内陸のフロンティアを拓く取組に係る物資供給拠点確保事業地内への商業施設の誘致 【シーガーデンシティ構想】	○ 商業施設誘致件数 【現状値】 0 件(実績なし) 【目標値】 3 件
(2) ホームページを活用した企業誘致のための P R	① ホームページへの企業誘致特設ページの新設	○ ホームページ(企業誘致特設ページ)アクセス件数 【現状値】 0 件 (企業誘致特設ページなし) 【目標値】 300 件
(3) 企業誘致用地情報の収集・提供	① 金融機関等への訪問による情報収集と情報提供	○ 企業立地相談件数 【現状値】 5 件/年 【目標値】 10 件/年
(4) 企業間交流の活性化	① 企業相互の活性化を促し、新しい経済活動を喚起するための企業間交流ネットワークづくり	○ 企業間交流組織の設立 【現状値】 0 件(実績なし) 【目標値】 1 件
(5) 企業立地支援体制の強化	① 医療、食品、環境関連等、成長分野企業への支援及び雇用に対する支援の強化	○ 新規企業からの補助金相談件数 【現状値】 5 件/年 【目標値】 10 件/年
		○ 既存企業からの補助金相談件数 【現状値】 2 件/年 【目標値】 5 件/年

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(6) 創業支援体制の構築	① 創業支援に対応するための体制整備	○ 吉田町創業支援ネットワークの設立 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 1件
	② 創業支援機関及び協力機関との連携	○ 産業競争力強化法における創業支援事業計画の策定及び認定 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 1件
	③ 創業支援事業の推進	○ 創業支援対象者数 【現状値】 20件/年 【目標値】 30件/年
○ 創業者数 【現状値】 7件/年 【目標値】 12件/年		
(7) 水産業への支援の充実	① 新規漁業就業希望者への就業支援の充実	○ 漁業就業相談件数 【現状値】 1件/年 【目標値】 5件/年
	② 特産品、加工品等が購入できる直売所の設置	○ 特産品、加工品等が購入できる施設数 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 1件
(8) 学生と企業の関わりの強化	① 産学官協働組織の連携強化	○ インターン先企業の開拓 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 5件

<基本目標>

3 本町への新しいひとの流れをつくる

<数値目標>

3-1 観光交流客数

【現状値】 32 万人/年

【目標値】 50 万人/年(達成期限/平成 31 年度)

<講ずべき施策に関する基本的方向>

- 情報発信拠点を整備し、津波防災まちづくりについて、積極的にPRしていくための拠点を整備する。
- 本町に訪れた人が、確実に町の観光資源やイベント等の情報を入手できるようにし、その来訪者を町内の各所に誘導して、滞在してもらえるようにする仕掛けづくりを担う体制を整備する。
- 商業施設を誘致するとともに、子供連れの方も、この商業施設でゆっくり買い物ができるサポートシステムを構築する。
- しらす、うなぎ等の特産品を活用した新商品を開発するため、産官学が連携して新商品を研究、開発する。
- 既存の観光資源を活用し、長時間滞在できる新たな観光スポットの創出を図る。
- 各種イベント等へ「よし吉(きち)」が参加し町のPRを行うことにより、町の特色や魅力、各種施策等の情報発信の強化を図る。
- 国際化への対応として、通信環境や多言語化への施設整備の充実を図る。
- 新規雇用に伴う転入者が、町内に定住できるための支援を行っていく。
- 学生に地元地域及び企業を知ってもらうため、大学と地域間の交流を促進し、雇用創出及び若者定着の促進を図る。

◆ 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(1) 防災発信拠点の整備	① 町の取組や防災グッズの紹介、防災食の試食等による体験型防災発信拠点の整備 【シーガーデンシティ構想】	○ 防災発信拠点の整備箇所 【現状値】 0 か所(未整備) 【目標値】 1 か所
(2) 賑わい創出のための体制づくり	① 情報発信拠点の整備及び賑わいを企画運営する団体の設立 【シーガーデンシティ構想】	○ 企画運営団体設立件数 【現状値】 0 件(団体なし) 【目標値】 1 件
	② ホームページへの観光特設ページの新設	○ ホームページ(観光特設ページ)アクセス件数 【現状値】 0 件 (観光特設ページなし) 【目標値】 300 件
	③ 町のプロモーションビデオによる情報発信	○ プロモーションビデオの上映回数 【現状値】 0 回 (整備計画中につき実績なし) 【目標値】 1,660 回
(3) 子育て世代にやさしい買い物支援	① 物資供給拠点確保事業区域内への幼児一時預かり所の設置 【シーガーデンシティ構想】	○ 幼児一時預かり所の設置件数 【現状値】 0 か所(未設置) 【目標値】 1 か所
(4) 産官学連携による新商品開発に向けた取組	① 大学等と連携し、特産品を活用した新商品の研究、開発 【シーガーデンシティ構想】	○ 技術提携件数 【現状値】 0 件(実績なし) 【目標値】 1 件
(5) 新たな観光スポットの創出	① 海辺を活用した観光スポット(海浜回廊及び多目的広場)の創出 【シーガーデンシティ構想】	○ シーガーデンへの来場者数 【現状値】 0 万人/年(未整備) 【目標値】 10 万人/年

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(5) 新たな観光スポットの創出	② 地元ボランティア組織との連携 【シーガーデンシティ構想】	○ 地元ボランティア組織の設立 【現状値】 0件(団体なし) 【目標値】 1件
	③ 海産物の直売所、食堂の運営 【シーガーデンシティ構想】	○ 運営組織の設立件数 【現状値】 0件(団体なし) 【目標値】 1件
	④ 海浜回廊と多目的広場を活用したイベントの開催 【シーガーデンシティ構想】	○ 海浜回廊と多目的広場を活用したイベントの開催 【現状値】 0回/年 (近似地イベント2回/年) 【目標値】 4回/年
(6) 町の魅力情報発信強化	① ホームページをリニューアルし、携帯サイトや各種項目等の充実による情報発信の強化	○ ホームページへのアクセス件数 【現状値】 160,965件/年 【目標値】 205,437件/年
(7) PRキャラクターによる町の知名度向上及び交流人口の増加	① PRキャラクター「よし吉(きち)」を活用し、町の特色や魅力、各種施策等情報発信を強化するとともに、町の知名度向上や交流人口の増加を促進	○ 各種イベント参加におけるグッズ配布による町のPR件数 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 2,100件
		○ 着ぐるみ貸出によるPR件数 【現状値】 0件/年(実績なし) 【目標値】 2件/年
(8) 定住促進支援事業の推進	① 浜田土地区画整理事業区域及び富士見土地区画整理事業区域内への定住促進 【シーガーデンシティ構想】	○ 定住相談件数 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 100件
(9) 外国人対応力の強化	① 通信環境の整備	○ 無料Wi-fiスポット 【現状値】 0か所(実績なし) 【目標値】 10か所

分 野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(9) 外国人対応力の強化	② 施設における滞在環境の充実	○ 案内看板(多言語化)の設置数 【現状値】 0 か所(実績なし) 【目標値】 10 か所

<基本目標>

4 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

<数値目標>

- 4-1 母子健康手帳交付数
 - 【現状値】 255 件
 - 【目標値】 300 件(達成期限/平成 31 年度)
- 4-2 合計特殊出生率
 - 【現状値】 1.73
 - 【目標値】 2.07(達成期限/平成 31 年度)
- 4-3 児童生徒総数
 - 【現状値】 2,658 人
 - 【目標値】 2,700 人(達成期限/平成 31 年度)
- 4-4 15 歳以下の図書館利用人数
 - 【現状値】 7,446 人
 - 【目標値】 10,500 人(達成期限/平成 31 年度)

<講ずべき施策に関する基本的方向>

- 結婚や家庭を持つことへの夢を抱き、その夢を叶えることができるように出会いの場を創出する。
- 関係機関が連携して、妊娠、出産、子育てについて切れ目ない支援を行うとともに、子育てしやすい環境の整備を図る。
- 国や県、関係団体等と連携した様々な広報を通じて、ワーク・ライフ・バランスの意義や重要性を啓発する。
- 職場や家庭、地域において、子育て期の母親の孤立化の防止や育児負担の軽減を図るため、特に父親の固定的な役割分担意識の解消に取り組む。
- 思春期を対象に妊娠適齢期等、妊娠、出産についての知識と若い時期から心がけなければならない健康づくりについての知識の普及を図る。また、不妊症対策、妊娠・出産に影響を与える喫煙や感染症対策等を強化する。
- 安心して出産に臨めるよう、2 次医療圏域での周産期医療施設間の連携等体制整備を進めるとともに、妊婦と家族の精神的・経済的負担の軽減に努める。
- 「確かな学力」を確保するため引き続き教育事業を推進する。

<講ずべき施策に関する基本的方向>

- 魅力ある町独自の教育システムを構築し、吉田町で教育を受けさせたいと思える質の高い教育を行う。
- 子育てしやすく、安心して教育が受けられる環境を整える。
- 図書館利用が増加してきている子育て世代に対する読書支援活動の充実を図る。

◆ 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(1) 結婚気運の醸成	① 観光資源をいかした出会いの場の提供	○ 出会いの場参加者数 【現状値】 0人/年(未実施) 【目標値】 100人/年
(2) 妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援	① ワンストップ窓口としての子育て世代包括支援センターの設置	○ 子育て世代包括支援センターの設置 【現状値】 0か所(未設置) 【目標値】 1か所
	② 妊娠から出産までの支援の充実を図るとともに、支援が必要な妊婦を確実に把握し、正常な妊娠経過をたどることができるよう必要な継続支援を行う	○ 支援ニーズが高い妊産婦全員への支援の実施割合 【現状値】 未把握 【目標値】 100%
		○ プレママクラブ参加者数 【現状値】 未把握 【目標値】 100人/年
	③ 1歳までの乳児全数の状況を把握し、早期に必要な支援を開始する	○ 7か月児健康相談実施率 【現状値】 0%(未実施) 【目標値】 100%
	④ タイムリーな訪問による支援を行うとともに、関係機関との迅速な連絡調整を図る	○ 訪問支援が必要な妊産婦、乳幼児へのタイムリーな訪問実施割合 【現状値】 未把握 【目標値】 100%
⑤ 子育て支援・相談体制の充実	○ 子育て相談訪問件数 【現状値】 1件/年 【目標値】 25件/年	
	○ 子育て支援センター利用人数 【現状値】 11,857人/年 【目標値】 12,000人/年	

分 野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(3) 子育てしやすい環境の整備	① 育児の負担軽減	○ ファミリーサポートセンター 会員数(到達期限/平成 29 年度) 【現状値】 0 人(未設置) 【目標値】 50 人
		○ 一時預かりの利用者数 【現状値】 1,423 人/年 【目標値】 1,440 人/年
		○ 月齢児保育の充実 【現状値】 3 人/年(9 か月児からの 受入れ) 【目標値】 6 人/年(6 か月児からの 受入れ)
	② 子どもの居場所の整備	○ 保育所の待機児童数 【現状値】 0 人/年 【目標値】 0 人/年(現状維持)
		○ 放課後児童クラブの待機児童数 【現状値】 0 人/年 【目標値】 0 人/年(現状維持)
		○ 認定こども園の誘致の検討 【現状値】 0 園(実績なし) 【目標値】 1 園
		○ 放課後子供教室の設置 【現状値】 1 か所 【目標値】 2 か所
		○ 放課後子供教室及び放課後 児童クラブの連携 【現状値】 0 か所(実績なし) 【目標値】 2 か所

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(3) 子育てしやすい環境の整備	③ 子どもが遊べる場所の整備 (公共施設)	○ 公共施設の育児スペース、キッズサークル、公園遊具等を設置したことに伴う利用者の満足度 【現状値】 未把握 【目標値】 80%
		○ 児童館利用者数 【現状値】 22,878 人/年 【目標値】 23,000 人/年
	④ 企業・店舗を巻き込んだ子育てしやすい雰囲気の醸成	○ 子育てに協力している企業数 【現状値】 未把握 【目標値】 50 社
		○ 県の子育て優待カード協賛吉田町店舗数 【現状値】 38 店舗 【目標値】 50 店舗
	⑤ 子育てに関する情報発信の充実	○ 子育てに関する情報収集に満足している人の割合 【現状値】 未把握 【目標値】 80%
⑥ 放課後児童クラブ利用の負担軽減	○ 放課後児童クラブの利用者の満足度 【現状値】 未把握 【目標値】 80%	
(4) ワーク・ライフ・バランスの啓発	① ワーク・ライフ・バランスの普及促進	○ 静岡県「男女共同参画社会づくり」宣言事業所・団体数 【現状値】 15 件 【目標値】 20 件
(5) 固定的な役割分担意識の解消	① 男性の家事への参加に向けての支援	○ イクメン講座の実施 【現状値】 0 回/年(実績なし) 【目標値】 3 回/年

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(6) 妊娠、出産について正しい知識の普及	① 中学校、成人式等又は妊婦自身に対し、結婚、妊娠、出産について正しい知識の普及	<p>○ 年間出生数における低出生体重児割合の減少度 【現状値】 9.1%(平成25年度) 【目標値】 現状値より減少</p> <p>※ 母親の妊娠中における生活習慣が胎児に影響を及ぼしていることが示唆されており、正しい知識の普及により、一部の低出生体重児は発生予防できるといわれている。</p>
		<p>○ 妊娠や出産に関する講座実施回数 【現状値】 未把握 【目標値】 1回/年</p> <p>○ 育児に携わる機会への参加人数 【現状値】 未把握 【目標値】 250人/年</p>
	② 不妊治療についての情報提供と精神的サポート及び不妊治療費助成事業の実施継続	○ 不妊治療に対する精神的サポート件数 【現状値】 23件/年 【目標値】 30件/年
(7) 周産期医療等支援体制の整備	① 第2次医療圏での周産期医療体制の整備を進める	○ 第2次医療圏内の分娩取扱施設での出産可能な割合 【現状値】 未把握 【目標値】 100%/年
(8) 産みやすい環境の整備	① 出産に伴う経済支援を行う	○ 出産時に経済的負担の軽減ができた妊産婦の割合 【現状値】 未把握 【目標値】 100%/年

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(9) 確かな学力の確保	<p>① 吉田町ラーニングプランの推進及び公設学習塾の開設</p> <p>※ 公設学習塾 土曜日や夏季休業中の補充学習塾（町学力調査結果を生かして定着度が低い科目を中心に学力の向上を図る）</p>	<p>○ 全国の平均正答率とのポイント差</p> <p>【現状値】 小学校（国語A+1.5、国語B+0.6、算数A+0.8、算数B-2.3） 中学校（国語A-1.7、国語B-0.6、数学A-0.8、数学B-2.0）</p> <p>【目標値】 小学校（国語A+2.0、国語B+1.0、算数A+1.0、算数B±0） 中学校（国語A±0、国語B±0、数学A±0、数学B±0）</p>
	<p>② CIUの増員と英語教育の充実</p>	<p>○ 英語の授業内容がよく分かる児童生徒の割合</p> <p>【現状値】 小学校/未把握 中学校/未把握</p> <p>【目標値】 小学校/80% 中学校/80%</p>
(10) 魅力ある教育システムの構築と質の高い教育の充実	<p>① 吉田町版「幼・保・小中一貫教育」の確立</p>	<p>○ 幼児教育の充実に満足している割合</p> <p>【現状値】 33.2%</p> <p>【目標値】 40.0%</p>
		<p>○ 学校教育の充実に満足している割合</p> <p>【現状値】 32.1%</p> <p>【目標値】 40.0%</p>

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(10) 魅力ある教育システムの構築と質の高い教育の充実	② ちいさな理科館と学校が連携した理科教育の充実	○ 理科の勉強が好きという児童生徒の割合 【現状値】 小学校/未把握 中学校/未把握 【目標値】 小学校/80% 中学校/80%
	③ ICTを活用した情報活用能力の強化	○ 「総合的な学習の時間」に主体的に取り組む児童生徒の割合 【現状値】 小学校/65.1% 中学校/54.0% 【目標値】 小学校/80% 中学校/80%
(11) 安心して教育を受けられる環境の整備	① 小中学校へのエアコンの導入	○ 小・中学校の空調設備整備率 【現状値】 小学校/6.9% 中学校/75.6% 【目標値】 小学校/100% 中学校/100%
	② スクールソーシャルワーカーの配置	○ 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合 【現状値】 小学校/86.3% 中学校/79.8% 【目標値】 小学校/90% 中学校/90%
(12) 子育て世帯のための読書環境の整備	① 児童図書フロアでの読書相談・調べ学習支援の充実	○ 蔵書新鮮度 【現状値】 4% 【目標値】 25%
	② 子育て支援施設等の配送貸出サービスの充実	○ 訪問施設数/貸出冊数 【現状値】 4か所/1,330冊 【目標値】 12か所/5,760冊

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(13) 子育て支援情報の提供	① 子育て支援施設等の配送貸出サービスの充実	<p>○ （仮称）Child care support コーナーの設置</p> <p>【現状値】 コーナー設置/無 該当資料蔵書数/1,275冊</p> <p>【目標値】 コーナー設置 コーナー蔵書数/2,000冊 コーナー蔵書利用率/60%</p>

<基本目標>

5 時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する

<数値目標>

- 5-1 年間交通事故死者数
【現状値】 2人
【目標値】 0人(達成期限/毎年度)
- 5-2 刑法犯罪認知件数
【現状値】 148件
【目標値】 133件以下(10%削減)(達成期限/平成31年度)
- 5-3 特定健康診査受診率
【現状値】 38.8%
【目標値】 60%(達成期限/平成29年度)
※ 達成後は維持以上を目指す。
- 5-4 お達者度
【現状値】 男性/17.69 女性/21.78
【目標値】 男性/18.82 女性/21.84(達成期限/平成31年度)
- ※ お達者度
65歳の平均自立期間。(要介護2~5でない状態を「自立している(お達者である)」と定義して、静岡県が市町別に健康な期間を求めたもの。)
- 5-5 自立高齢者割合
【現状値】 86.6%
【目標値】 86.6%(現状維持)
- 5-6 介護予防の自主活動回数
【現状値】 100回
【目標値】 600回
- 5-7 耕作放棄地の解消(農地への再生)
【現状値】 28.3ha
【目標値】 5ha(達成期限/平成31年度)
- 5-8 農業生産法人等の担い手への農用地集積面積
【現状値】 154ha
【目標値】 165ha(達成期限/平成31年度)

＜数値目標＞

- 5－9 農業参入する企業等の中核的担い手への活動支援
【現状値】 42 経営体
【目標値】 45 経営体(達成期限/平成 31 年度)
- 5－10 道路ストック修繕率
【現状値】 0%
【目標値】 100%(達成期限/平成 31 年度)
- 5－11 浄化センターの長寿命化率
【現状値】 1.0%
【目標値】 100%(達成期限/平成 31 年度)
- 5－12 水道管の耐震化率
【現状値】 26%
【目標値】 30%(達成期限/平成 31 年度)
- 5－13 スポーツ施設の耐震化率
【現状値】 0%
【目標値】 100%(達成期限/平成 31 年度)
- 5－14 下水道処理人口普及率
【現状値】 38.7%
【目標値】 42.6%
- 5－15 浄化槽処理人口普及率
【現状値】 33.4%
【目標値】 41.8%(達成期限/平成 31 年度)
- 5－16 家庭教育学級参加率
【現状値】 67%
【目標値】 75%(達成期限/平成 31 年度)
- 5－17 笑顔いっぱい運動の参加者
【現状値】 1,049 人
【目標値】 1,300 人(達成期限/平成 31 年度)
- 5－18 生涯学習教室への年間参加人数
【現状値】 708 人
【目標値】 800 人(達成期限/平成 31 年度)

<数値目標>

- 5-19 芸能祭・文化展等入場者数
【現状値】 3,773 人
【目標値】 4,000 人(達成期限/平成 31 年度)
- 5-20 町主催の各種大会、スポーツ教室への参加人数
【現状値】 2,485 人
【現状値】 2,800 人(達成期限/平成 31 年度)
- 5-21 読書支援に関する町内連携施設数
【現状値】 5 か所
【目標値】 15 か所

<講ずべき施策に関する基本的方向>

- きめ細やかな交通安全啓発を図る。
- 防犯パトロールの充実及び強化を図る。
- 医療保険制度は、必要なときに必要な医療を受けるための制度であるが、医療を受ける前に特定健康診査・特定保健指導をはじめ、自らが健康づくりに対する意識を持つ必要があるため、今後更に予防対策に重点を置いた施策を講ずる。
- 要介護原因となる脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症による透析導入を予防するために、生活習慣病を発症する危険度の高い人を優先して重点的に生活習慣病の発症予防、重症化の予防を行う。
- 生活習慣に起因する要介護状態の予防のため、壮年期からの運動習慣定着、認知症予防に向けた取り組みを行う。さらに将来的な生活習慣病予防のため、子どもの頃からの健康的な生活習慣づくりに取り組む。また、生活習慣病予防や健康増進に不可欠な睡眠のとり方に併せこころの健康づくりを進めていくなど、ライフステージの特性に応じた健康づくり施策を推進する。無関心層に対する健康づくり施策や地域ぐるみの取り組みなどについて検討・推進する。
- 住み慣れた町で安心して医療が受けられるように、町民が地域でのかかりつけ医がもてるように、開業医の確保をするとともに、広域的(2次医療圏)な医療体制を構築する。また、救急医療体制の現状や適正医療について、町民への周知に努める。

＜講ずべき施策に関する基本的方向＞

- 子どもから高齢者まで、住み慣れた吉田町で安心して暮らし続けることができ、年齢や障害の有無にかかわらず「垣根のない保健福祉サービス」を引き続き提供する。
- 高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進し、地域活動へ参加しやすい環境の整備や就労等への支援を図る。
- 保健・医療・福祉の連携のもと、利用者ニーズに即した生活支援サービス（日常生活移動支援事業）の充実を図る。
- 認知症になっても本人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域における保健医療、介護及び福祉の各関係機関等と一体的に認知症施策を推進する。
- 介護予防として元気な高齢者の日中の居場所づくりや活動の場づくりの環境整備を図る。
- 重度介護認定者が住み慣れた地域で生活をするができるよう基盤整備の充実を図る。
- 介護保険サービス事業所と連携し、安定的かつ良質なサービスを提供する。
- 既成の補助制度等を活用して耕作放棄地を再生し、農業生産法人等の担い手への農地流動化を促進するとともに、本町の実態に合った耕作放棄地対策を検討する。
- 農業委員会や農業協同組合と協調し、農地利用集積円滑化事業や農地中間管理事業等を活用して、貸借による優良農地の斡旋を行い、農業参入する企業等への農地流動化の促進を図る。
- これまでのように壊れてから実施する事後修繕ではなく、事前修繕として実施することにより、施設の長寿命化とともに、トータルコストの縮減・平準化を図る。
- 職員の専門的技術育成とともに、各種メンテナンス技術を備えた専門職員を確保する。
- 浄化センター長寿命化計画に基づき計画的な改築、更新を行い、予防保全型維持管理を行う。

＜講ずべき施策に関する基本的方向＞

- アセットマネジメントを基にした耐震化計画を策定のうえ、水道管の耐震化を実施する。これにより漏水のない安定した水の供給を行うこと及び災害時の不安を少なくし、住環境の整備を図るとともに災害に強いまちとして、町外への流出を減少し、近隣市からの流入を図る。
- スポーツ施設の耐震化や老朽化した施設の改修を行い、利用者が安全で安心して利用できるスポーツ活動の拠点となる施設を整備する。
- 事業計画区域の拡大を図り、下水道管渠整備を推進し、下水道処理人口普及率の向上を図り、住環境を改善する。
- 浄化槽設置費補助事業を推進し、浄化槽処理人口普及率の向上を図り、住環境を改善する。
- 地域教育活動へ参画する団体の連携、地域ボランティアの育成を図ることで、地域の大人が地域の子供を育てる体制づくりを推進する。
- 地域で子供を育む活動を行う個人・団体の広報を充実させることで、活動への関心を高め、参加を促す。
- 地域ぐるみで学校教育を支援することで、地域・家庭・学校の連携を図る。
- 学習機会の場を充実させることで学習環境の充実を図るとともに、発表する機会を提供する。
- 生涯学習を通じて地域づくりを担う人材が育成されることにより、新たな人材が育成されるという循環を形成する。
- 文化団体の育成・拡充や文化的な活動を推進できる指導者の育成を図ることにより、文化芸術活動を活性化する。
- 芸能祭・文化展などの充実を図ることにより、住民が優れた文化芸術に親しみ、地域文化に対する関心を高め、自ら文化芸術活動に参加できる環境を整える。
- スポーツを推進する各種団体の育成を図る。
- 民間スポーツ団体との連携を図る。
- 図書館に来館することが困難な町民に対する読書支援活動の充実を図る。

◆ 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(1) 交通安全意識の高揚	① 高齢者の交通安全意識の高揚を図る	○ 高齢者人口 1 万人当たりの事故発生件数 【現状値】 62.78 件 【目標値】 50 件(20%削減)
(2) 防犯活動の推進	① 防犯活動の強化を図る	○ 青色防犯パトロール実施団体数 【現状値】 2 団体 【目標値】 10 団体
(3) 医療費の適正化を図るとともに、健康維持・増進を主体とした取組を図る	① 特定健康診査・特定保健指導の受診率向上と受診を受けやすい体制づくりを図る	○ 他の健診との同時開催日数/年 5 回を含んだ全体の受診率 【現状値】 38.8% 【目標値】 60%
	② 健康保険制度の理解を深めていただくため、町民、中・高校生を対象に説明会を開催する	○ 出前講座の開催 【現状値】 0 回/年(未実施) 【目標値】 2 回/年
	③ 個人・地域へのPR活動の強化(健診内容・重要性)	○ 情報発信回数 【現状値】 2 回/年 【目標値】 6 回/年
(4) 生活習慣病の早期発見、発症予防と重症化予防	① 保健協力委員と協働した特定健診受診率向上のための地域への普及、啓発の強化	○ 保健協力委員が特定健診受診勧奨活動を実施した町内会数 【現状値】 未実施 【目標値】 19 町内会(全町内会)

分 野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(4) 生活習慣病の早期発見、発症予防と重症化予防	② 特定健診事後指導、個別相談、生活習慣病重症化予防事業の強化	○ 高血圧有病者の割合(40～74歳) 【現状値】 男性/46.7% 女性/37.8% 【目標値】 男性/38.9% 女性/31.8%
		○ 高血圧予備群の割合(40～74歳) 【現状値】 男性/14.6% 女性/13.1% 【目標値】 男性/13.1% 女性/11.4%
(5) ライフステージの特性に応じた健康づくりの推進	① 小中学校での生活習慣病予防に向けた食生活、運動などの健康教育について、町の健康課題を学校と共有して実施する	○ 体育以外で週3日以上運動する児童の割合 【現状値】 43.9% 【目標値】 43.9%以上
	② 若い世代から認知症予防・高血圧予防のための生活習慣についての知識の普及、啓発	○ 薄味を心がけている人の割合 【現状値】 56.9% 【目標値】 56.9%以上 ○ 町民に対する減塩推進普及活動 【現状値】 未把握 【目標値】 19か所
(6) 地域ぐるみでの健康づくりへの取り組み	① 保健協力委員と協働し、町内会単位での健康課題、生活習慣病予防に対する勉強会開催	○ 町内会での健康づくり勉強会開催回数 【現状値】 未実施 【目標値】 19町内会(全町内会)

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(6) 地域ぐるみでの健康づくりへの取り組み	② 自治会や各種団体のイベントにおいて、保健協力委員、健康づくり食生活推進協議会の自主活動により、健康課題に対する生活習慣改善について普及、啓発し、無関心層にも働きかける健康づくりの実施	○ 地域のイベントで健康づくりに関するコーナーを設けている数 【現状値】 8 か所 【目標値】 8 か所以上
(7) 地域医療の充実	① 内科開業医数を維持するため、医師会その他の関係機関と協議を重ね対応を検討	○ 内科開業医数の維持 【現状値】 8 人(7 件) 【目標値】 現状維持
	② 2 次医療圏で医療及び救急医療体制の維持確保と周知	○ 救急医療体制の維持 【現状値】 3 体制 【目標値】 現状維持
	③ 地域医療を守る団体の活動を支援するとともに、適正医療推進の啓発を行う	○ 地域医療を支えるはいなんの会へ加入している町民数 【現状値】 4 人 【目標値】 10 人以上
(8) 吉田町版「共生型保健福祉」の推進	① ワンストップ窓口の体制整備	○ ワンストップ窓口の設置 【現状値】 0 か所(未設置) 【目標値】 1 か所
(9) 高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進	① 新しい吉田寿大学(2 年制)の開校	○ 寿大学(2 年制)を卒業した方が地域団体等で活動している人数 【現状値】 0 人(実績なし) 【目標値】 20 人

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(9) 高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進	② 自立した高齢者を支援する施設の整備	○ 自立した高齢者を支援する施設で活動している高齢者の人数 【現状値】 0人(実績なし) 【目標値】 3,600人 ※ 平成27年度から「高齢者人材活用センター」が開所
	③ 生涯現役人材バンク事業の推進	○ いきいきボランティア倶楽部に登録し活動している高齢者の人数 【現状値】 0人(実績なし) 【目標値】 50人
	④ いきいきサロン助成事業の創設	○ いきいきサロン助成事業を利用している高齢者の人数 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 1,200件
(10) 高齢者への生活支援サービスの充実	① 高齢者のニーズに即した生活支援サービスの充実	○ 生活支援コーディネーターの配置数 【現状値】 0人(実績なし) 【目標値】 1人
	② 買い物弱者を支援するための協議体の設置	○ 生活支援協議体の設置 【現状値】 0か所(未設置) 【目標値】 1か所
	③ 日常生活移動支援事業の充実	○ 日常生活移動支援事業を利用している高齢者の人数 【現状値】 751人 【目標値】 770人

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(10) 高齢者への生活支援サービスの充実	④ 高齢者向けワンコインサービスの導入	○ 高齢者向けワンコインサービス事業を利用している高齢者の人数 【現状値】 0人(実績なし) 【目標値】 550人
(11) 認知症高齢者支援対策の推進	① 認知症高齢者への支援体制の整備	○ 認知症サポーター数 【現状値】 604人 【目標値】 850人
		○ 認知症キャラバンメイト数 【現状値】 7人 【目標値】 12人
	② 認知症に対する理解と町民意識の向上	○ 認知症ケアパスの配布件数 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 10,000件
	③ 高齢者見守りネットワークの充実	○ 高齢者見守りネットワーク事業に登録し見守り活動している事業所数 【現状値】 38社 【目標値】 45社
(12) 介護予防の推進	④ 徘徊高齢者対策の充実	○ 徘徊模擬訓練の実施回数 【現状値】 0回(実績なし) 【目標値】 3回
	① 介護予防に関する知識の普及、啓発の実施や地域における自主的な介護予防活動の支援	○ 住民主体の通いの場の設置数 【現状値】 0か所(未設置) 【目標値】 5か所

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(12) 介護予防の推進	② 介護予防に資する体操を制作し、普及を図る	○ 介護予防体操の実施回数 【現状値】 0回/年(実績なし) 【目標値】 500回/年 <small>※ 介護予防体操は平成27年度中に制作</small>
	③ 介護保険の認定結果が自立となった方への電話・訪問を実施し、各種教室への参加を促す	○ 対象者への電話・訪問の件数 【現状値】 0件(実績なし) 【目標値】 全件
	④ 低栄養状態が疑われる対象者を早期発見し、管理栄養士による個別の栄養相談及び栄養教育の実施	○ 栄養相談及び栄養教育の実施人数 【現状値】 0人(実績なし) 【目標値】 5人
	⑤ 地域の実情に応じた効果的、効率的な介護予防の取組方法、効果の評価方法を習得しサービス提供体制の構築を支援	○ 事業主体(民間企業・NPO・共同組合・社会福祉法人・ボランティア等)の設置数 【現状値】 0か所(未設置) 【目標値】 4か所
(13) 地域密着型介護サービスの充実	① 地域における介護拠点となる入所施設を整備し、施設介護サービスの充実を図る	○ 地域密着型介護老人福祉施設の設置 【現状値】 0%(未設置) 【目標値】 100%(入所待機者ゼロ)
(14) 介護保険サービス事業所との連携	① 介護保険施設等へ介護相談員を派遣し、利用者から介護サービスに関する様々な相談を受け、その解決に努める	○ 介護保険施設等への苦情に対する解決度 【現状値】 100% 【目標値】 100%(現状維持)
	② 介護給付対象サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図るため実地指導の実施	○ ケアプランの点検 【現状値】 1件 【目標値】 5件

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(14) 介護保険サービス事業所との連携	③ 介護給付対象サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図るため実地指導の実施	○ 住宅改修の点検 【現状値】 1件 【目標値】 5件
(15) 農地の再生利用	① 農地パトロールによる巡回指導や相談体制を強化し、農業生産法人等の担い手へ補助事業を活用した耕作放棄地解消による規模拡大への取組み支援	○ 農業生産法人等の新たな担い手の掘起し 【現状値】 42 経営体 【目標値】 45 経営体
	② 耕作放棄地再生利用に対する町独自の制度を構築する	○ 農地利用状況調査等による農地相談の割合 【現状値】 1件(5a)/年 【目標値】 5件(25a)/年
(16) 地域の担い手への農地流動化	① 農地利用集積奨励金の見直しにより、農業生産法人等の担い手への集積率の向上	○ 「人・農地プラン」への農業生産法人等の位置付け 【現状値】 42 経営体 37%(154ha) 【目標値】 45 経営体 39%(165ha)
	② 農地銀行、農地中間管理事業等を活用した農地流動化の促進	○ 効率的かつ安定的な農業経営が地域における農用地の利用に占めるシェア目標 【現状値】 37%(154ha) 【目標値】 39%(165ha)
(17) 道路ストックの戦略的な維持管理・更新等の推進	① 道路ストック点検	○ 道路ストック点検比率 【現状値】 100% 【目標値】 100%(現状維持)
		○ 近接目視による橋梁点検 【現状値】 0橋 (静岡県橋梁点検マニュアルに基づく点検は実績なし) 【目標値】 256橋

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(17) 道路ストックの戦略的な維持管理・更新等の推進	② 舗装維持修繕の実施	○ 維持管理指数 3 未満の維持修繕 【現状値】 0 km (実績なし) 【目標値】 8 km <small>※ 平成 26 年度に策定した、路面性状調査(平成 25 年度に実施)に基づく舗装維持修繕計画による</small>
(18) 専門職員の確保	① 職員の人材育成	○ 橋梁点検等研修会への参加 【現状値】 1 人/年 【目標値】 1 人/年(現状維持)
(19) 下水道処理人口普及率、下水道整備率の向上	① 公共下水道管渠の整備	○ 管渠の整備延長 【現状値】 7.3 km (過去 5 か年) 【目標値】 7.5 km
(20) 予防保全型維持管理の推進	① 浄化センター長寿命化事業の推進	○ 長寿命化事業の推進 【現状値】 1.0% 【目標値】 100% (現計画:平成 30 年度)
(21) 浄化槽処理人口普及率の向上	① 浄化槽設置費補助事業の推進	○ 浄化槽設置数 【現状値】 419 基(過去 5 か年) 【目標値】 450 基
(22) 管の耐震化	① 基幹管路の耐震化を行い、災害リスクが少なく安定した水の供給を図ることによる安心安全な町づくり	○ 基幹管路耐震化 【現状値】 2,419m (17%) 【目標値】 3,300m (24%)
	② 耐用年数を経過した水道管の布設替を行い、安定した水の供給を図ることによる住環境の整備	○ 耐用年数経過管路残存距離(残存率) 【現状値】 81,266m (33%) 【目標値】 73,000m (30%)
	③ 石綿管の布設替を行い、安定した水の供給を図ることによる住環境の整備	○ 石綿管の残存数 【現状値】 439m 【目標値】 0m

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(23) 地域の大人が地域の子供を育てる体制づくり	① 社会教育プラットフォームの開催	○ プラットホーム参加団体 【現状値】 0 団体(実績なし) 【目標値】 20 団体
	② 子供を育む地域教育推進協議会の組織の充実	○ 地域教育推進事業への参加者数 【現状値】 延べ 83 人 【目標値】 延べ 120 人
	③ チャレンジ教室の内容の充実	○ チャレンジ教室参加者数・教室数 【現状値】 404 人・22 教室 【目標値】 500 人・30 教室
(24) 社会教育活動の広報	① 「広報よしだ」への社会教育団体掲載	○ 掲載回数 【現状値】 0 回/年(実績なし) 【目標値】 4 回/年
	② 地域教育団体広報用掲示板の作成	○ 掲示板設置場所 【現状値】 0 か所(実績なし) 【目標値】 4 か所
(25) 地域と学校の連携	① 吉田町学校応援団の充実	○ 吉田町学校応援団による学校支援活動の実施回数 【現状値】 10 回/年 【目標値】 20 回/年
	② 家庭教育学級の充実	○ 家庭教育学級参加率 【現状値】 67% 【目標値】 75%
(26) 地域と家庭の連携	① 家庭教育支援チームの設置	○ 家庭教育支援チームの設置 【現状値】 0 チーム(未設置) 【目標値】 1 チーム
	② 吉田町笑顔いっぱい運動の推進	○ 笑顔いっぱい運動スタッフベスト配布人数 【現状値】 1,049 人 【目標値】 1,300 人

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（K P I）
(27) 学習の場と成果発表の場の提供	① 多様化する住民ニーズに合わせた新たな教室の開講	○ 生涯学習教室開講教室 【現状値】 74 教室 【目標値】 94 教室
	② 多様化する生涯学習についての情報ネットワークを構築するとともに、住民の学習に関する相談に応じる体制の整備	○ 相談窓口の設置 【現状値】 0 か所(未設置) 【目標値】 1 か所
		○ 生涯学習教室の紹介コーナーの設置 【現状値】 0 か所(未設置) 【目標値】 1 か所
		○ ホームページへの生涯学習情報コーナーの開設 【現状値】 0 か所(未設置) 【目標値】 1 か所
	③ 文化祭、芸能祭の開催	○ 文化展出展者数 【現状値】 1,372 人 【目標値】 1,400 人
○ 芸能祭出演者数 【現状値】 620 人 【目標値】 700 人		
(28) 生涯学習推進のための指導者の育成と連携	① 生涯学習推進委員の資質向上のための、研修会等の実施	○ 生涯学習推進委員が地域で生涯学習活動を行う町内会の割合 【現状値】 未把握 【目標値】 10 町内会
	② コミュニティカレッジへの住民参加の促進	○ コミュニティカレッジを卒業した方が地域教育推進協議会で活動する人数 【現状値】 21 人 【目標値】 25 人

分野	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
(29) 文化団体指導者の育成	① 組織活性化のための文化団体の育成・拡充支援	○ 文化協会会員数 【現状値】 704人 【目標値】 800人
	② 文化団体指導者への研修会等の開催	○ 指導者への研修会等の開催 【現状値】 未実施 【目標値】 1回/年
(30) 文化・芸能活動の促進	① 新たな魅力ある文化を創造するための、地域間及び異分野との交流	○ 他市町文化協会との交流会の開催 【現状値】 1回/年 【目標値】 2回/年
	② 住民への情報提供のため、文化団体・サークルの活動内容の紹介や各種の学習情報の提供支援	○ 文化協会だよりの刊行 【現状値】 未実施 【目標値】 2回/年
	③ 芸能祭、文化展等の開催	○ 芸能祭、文化展等入場者数 【現状値】 3,773人 【目標値】 4,000人
(31) スポーツ団体の育成	① スポーツ団体を対象とした研修会の開催	○ スポーツ団体への研修会の開催 【現状値】 0回/年(実績なし) 【目標値】 1回/年
(32) 民間スポーツ団体との連携	① 民間スポーツ団体とのイベントや教室の開催	○ 民間スポーツ団体による各種スポーツ教室等 【現状値】 0回/年(実績なし) 【目標値】 2回/年
(33) 安全で安心して利用できる施設整備	① 総合体育館・体育センターの耐震化	○ スポーツ施設の耐震化率 【現状値】 0%(実績なし) 【目標値】 100%
(34) 高齢者等の読書環境の整備	① 高齢者・福祉施設への配送貸出サービスの充実	○ 訪問施設数/貸出冊数 【現状値】 1か所/80冊 【目標値】 3か所/720冊